

日常性を大事にする視点をこれまで通り維持してほしい。

- ・図書館は、普段生活している中で行けばほっとする場所。本に囲まれて、こんな人がこんなことを書いているのかと考え本を手にするのは至福の時間。
- ・日頃のボランティア仕事の資料読み込みにあたって、関係する資料の取り寄せをしてもらって、納得して仕事が進められたことがある。それも国会図書館資料室から。些細なことでも、地域に住んでいても、それがいつでもしてもらえてうれしいこと。
- ・行ったとき、司書さんが本の感想などを聞いてくれて同感してくれたりするのもありがたい。家族だけではそんな会話はなかなかないので。
- ・みんな年齢を重ねる。大型活字の本の種類と量を増やしてほしい。学び続けることをあきらめないために。

日常が豊かであることは、ささやかでも文化であると思う。